

職能科通信 6号

2010年11月発行

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県リハビリテーション病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

重度身体障がい者の在宅勤務の実際について

職能科通信 3号では重度身体障がい者への在宅雇用支援について、4号では当科の在宅訓練をご紹介しました。今回は、在宅勤務という雇用形態で就業されている方2名をご紹介します。お二人とも、頸髄を高位で損傷され、首から下が麻痺し、日常生活ではホームヘルパーや訪問看護師による介助を24時間体制で組まれています。また移動面では、自動車の運転ができず、電動車いすを使い、長距離移動にはガイドヘルパーの付き添いが必要です。パソコンの操作は、口に棒をくわえて入力をします。

【Aさん】

受傷後16年、ハローワーク求人により就職され、在宅勤務2年。職務内容はホームページ作成、データ入力。仕事上の注意点は、仕事の自覚をもつが無理はしない自制心と、コミュニケーションとのこと。



写真1 在宅勤務中のAさん

	月	火	水	木	金	土	日
8:30							
	更衣 車いす乗車		更衣 車いす乗車		更衣 車いす乗車		更衣 車いす乗車
10:30							
11:00		訪問 看護	仕事 (休憩90分)	訪問 看護	仕事 (休憩90分)	訪問 看護	
13:00				訪問PT			
14:00	病院	仕事		仕事			
17:00	仕事						
21:30							
23:30	就寝更衣・ベッド移乗						
0:00							

図1 Aさんの1週間の生活スケジュール

【Bさん】

受傷後、大学に復学し、卒業後は訪問介護事業所に就職したが、転職し、出身大学の紹介で現職に就く。在宅勤務4年。職務内容は営業資料作成。仕事上で気をつけていることは、健康管理と自己自制。在宅勤務は身近に評価者不在のため、真摯に仕事に取り組む意識が必要とのこと。



写真2 在宅勤務中のBさん

	月	火	水	木	金	土	日
8:00	起床更衣・車椅子乗車・洗面・朝食・食事介助・後片付け・掃除・洗濯						
9:30	排便 看護		排便 看護			排便 看護	
10:30	訪問 入浴	仕事	訪問 入浴	仕事	仕事	訪問 入浴	
11:30			訪問 リハビリ			訪問 リハビリ	
12:00	ホームヘルパーによる昼食・食事介助・後片付け						
13:00	仕事						
15:30	ホームヘルパーによる尿捨て・水分補給						
16:00	仕事						
17:30	ホームヘルパーによる夕食・食事介助・後片付け						
19:30	仕事		仕事	訪問 入浴			
21:30							
0:00	就寝更衣・ベッド移乗						
1:00							

図2 Bさんの1週間の生活スケジュール

お二人に共通することは、自己の障がいに関する知識と管理能力、まず1歩踏み出そうとする社会参加意欲、プライベートでの友達の多さ(趣味友達と障がい当事者団体)、目標や課題を見出して自分で学習する力など、在宅勤務で必要とされる要素が具体的に伝わってきます。

職能科では、このお二人と所属される会社にご協力をいただき、利用者と共にご自宅を訪問し、利用者へのアドバイスと継続的な交流をしていただいております。(松元 健)

高次脳機能障がいがある方の七沢学園訓練場面の活用

職能科で作業支援を行っている七沢学園就労移行支援事業の作業場면을、七沢更生ライトホームの利用者や神奈川リハビリテーション病院の入院・外来患者の方々にも、訓練場面として活用して頂いています。外部の企業から提供して頂いている作業教材を用い、作業工程を細分化し、視覚的な手がかりを多く取り入れ構造化した作業場面は、特に高次脳障がいがある方の訓練場面として、分かりやすい作業環境の1つです。一定期間



の活用で、障がい作業に影響する具体的な事象に直面する中で、ご本人の障がいへの認識を高めて頂き、課題点を整理出来ることは、就労(復職)や作業所通所など社会参加への準備段階として有効な訓練と考えています。今年度は5名の方が現在までに利用されていて、その内4名が現在も活用を継続されています。(佐藤 静代)

就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2010年9月・10月の人数	5名
4月からの累計人数	14名

就職・復職者の人数		
2010年9月・10月の 就職・復職者	新規就労	1名
	復職・自営業	2名
4月からの累計	新規就労	7名
	復職・自営業	16名

知的障がい部門の評価

七沢学園就労移行支援事業の利用者は、インテーク面接、作業テスト、ワークサンプル法などを活用した初回評価を経て作業訓練場面に導入されます。

作業テストは、主に手先の機能を評価するため職能科作業テストから単純反復作業と組立作業を実施しています。一般平均値との比較で作業実績の水準を把握することができます。

ワークサンプル法では、作業訓練で必要とされる基本的な作業動作(折る・切る・貼る・留める・綴じる・書く・線を引く・計る)、基本的な道具の使用(ハサミ・カッター・パンチ・定規・ステップラー・スケール)、照合、および構成力を評価するとともに、準備から片づけまでの行動を観察して遂行速度や言語指示理解などを把握します。作業テスト・ワークサンプル法での評価は、実施した時点での評価(一時性評価)です。一定期間訓練を経過して再度実施することにより、データの比較を行います。

訓練は、「場面設定法」により基礎過程と応用過程の訓練場면을設定しています。新人の利用者は基礎過程において訓練を行います。ここでは5つの事業所から提供された教材を媒体に作業訓練に取り組みます。また、基本的な職場のマナーや対人スキルを学ぶ「職業準備学習」を受講し身に付けます。作業環境は、自律行動できるようにスモールステップで構造化し、個別作業環境と集団作業環境が設定されています。基礎過程では、職務試行法として当センター内での体験実習と外部の事業所での体験実習を実施します。職業準備性が向上した段階で応用過程に移行します。

応用過程では、就業規則に従った行動が求められ、集団環境で社会的スキルと職業準備性を整えます。その後、基礎課程と同様に当センター内外での体験実習を実施し、ハローワークで求職登録を行い、就労を目指します。

場面設定法では、自分自身の課題に気付き対処法を身に付けることが重要ですが、職能科ではできるだけ多様な環境を設定して行動面の評価(機能評価)も行い、ご本人の状態像と対処法を把握